

## 令和4年度新見市地方独立行政法人評価委員会（第2回）議事要旨

日 時 令和4年7月6日（水）13:00～15:40

場 所 公立大学法人新見公立大学 本館2階 会議室A

出席者

評価委員会 岡崎委員長、中西委員、加藤委員

公立大学 公文学長、小田副学長、田枝事務局長、斎藤学生部長、

田枝事務局次長、吉田次長、難波課長、吉川課長、眞治主査、藤原主事

事務局 岩井課長、宮本参事、羽場主任

### ■要旨

「令和3年度事業報告書」、「令和3年度に係る業務の実績に関する項目別実績報告書」、「令和3年度財務諸表」、「令和3年度決算報告書」の各資料に基づき、公立大学から説明を受けた。

今回の評価委員会では、令和3年度事業実績についての大学からの説明にとどめ、次回評価委員会（7月15日（金）13:00から、市役所本庁舎3階第4委員会室）にて評価を審議することとした。

### ■詳細

#### I 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

##### 1 教育

###### 1) 教育の内容

委員：有料の公務員講座を受講した学生の数はどのくらいか。

大学：健康保育学科、地域福祉学科の3年次生62人が受講した。

委員：看護学科の訪問・地域看護コース（定員5人）、保健師教育課程（定員20人）、養護教諭養成課程（定員10人）の3コースの定員の合計が、看護学科の学生数か。

大学：看護学科の定員は80人である。3コース以外の45人は看護師免許のみを取得するようになる。

委員：大学院について、改組申請に対する認可がされるのはいつごろか。

大学：令和4年6月24日に申請を行い、8月末に認可される予定だ。

委員：新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していたものができなかったという事はあったか。

大学：ワクチン接種や感染リスクへの対応を行い、ほぼすべての授業を対面で行うことができた。遠隔授業としたのは数コマのみだった。また、部活動やボランティアも、活動内容を協議した上で行うことができた。コロナの影響はなかった。

委員：昨年度に比べ、キャリア支援センターが充実してきていると感じる。

大学：スタッフを揃え、施設整備も行った。利用者が増えてきており、キャリア支援センターが機能してきている。

委員：大学院講義の開講日程を金曜日の夕方から土曜日の終日に設定されているが、これは学生が出席しやすい時間にしたということか。

大学：そうだ。学びたい人が学べるような時間とした。

委員：これにより教職員の負担は増加したか。

大学：民間警備業者を入れるなどし、対応している。

## 2) 教育の実施体制

委員：自己評定として4点をつけている理由は何か。

大学：現在は学生の意見を取り入れ授業を行うという時代になってきている。これに対し早く対応し、改革している。これが理由だ。

委員：学生の要望は、学生から直接届くのか。

大学：学友会を通して、学生からの要望がそのままの内容で、事務局に伝えられる。

委員：人材の確保について、教員は今後もまだ必要か。

大学：学部の教員は充足したが、大学院の教員がまだ若干名必要だ。

## 2 研究

### 2) 研究の実施体制

委員：著書や論文の執筆は他大学と比べて積極的か。

大学：他大学と比較すると論文数は少ない。著書の執筆数は平均と比較し多い方だ。本学の教員は遠方の県南で実習指導を行っており、教育に多くの時間を取られる本学の特徴が影響している。

委員：外部資金の獲得について、獲得金額が1,000万円は多いのか、少ないのか。

大学：獲得したのは科学研究費だが、この規模の大学としては多い。本学は若手研究者が獲得できており、良い兆候だ。本学での研究は、一件当たりの金額が少額な分野だが、獲得件数が多い。

委員：研究ができるような雰囲気になってきていると感じる。

大学：大学に見合った教員採用行っており、研究をよく行っている研究者を採用しているという事もある。

委員：中山間地にある大学としてはレベルの高い大学であるのではないか。他大学から、なぜこのような教育ができるのかといった視察はあるのか。

大学：教育支援センターやにこたんに対して、近隣の大学からの視察がある。また、2019年に四大化し、きちっとした組織や教員を揃えており、それへの視察もある。

### 3 学生の確保及び支援

#### 1) 学生の確保

委員：一般入試前期試験の応募倍率が5.4倍から2.8倍となっている。原因分析はしているのか。これは分析すべき数字だ。

大学：各大学が学生の取り合いを必死に行っており、入試方法の変更やキャンパスの移転や整備などを行っている大学もある。前年の高倍率となった本学の状況が報道され、今年度は敬遠されたという事もある。

また、全国の高校を訪問した結果、受験生は推薦入試や前期試験の段階で、早く進路先を決めたいという傾向があることが分かった。この他に、コロナ禍の影響で近隣大学のオープンキャンパスにしか行かずに進路先を決めているという事もある。遠隔地は敬遠されており、大学の偏差値より通学距離が重視されている。ただ、成績上位層は難関大学を目指していることには変わりない状況だ。国の修学支援により、私立大学にも行きやすくなっているということもある。今後は、就職状況や、教育の実績をアピールしていかないといけないと考えている。

委員：学生確保について対策も考えてあることに安心した。

委員：学生確保は10年前より難しくなっているか。

大学：そうだ。

委員：実習で学生と関わる機会があった。県外出身者が多く、新見の認知度はあると感じている。今後も頑張りたい。

委員：退学者はいるのか。

大学：進路の再考を理由とした退学者がいる。退学率は全国平均で3%程度だが、本学は1.5%を下回る。

委員：短期宿泊施設の利用とはどのようなケースがあるのか。

大学：県南で学生が実習をする際に宿泊するためや、災害時に帰宅困難になった学生、ストーカー等の際の避難場所のために大学が施設を用意している。

委員：県南の施設は足りているのか。

大学：10室以上用意しており、足りている。

#### II 社会貢献に関する目標を達成するために取るべき措置

委員：「えきよこ」の新見駅西サテライトについて、今後の予定はあるか。

大学：現在各領域で検討している。なお、スタディラウンジでは高校生の利用が増えており、高校生と大学生の交流が生まれている。

委員：駅西サテライトの運用は始まっているのか。

大学：始まっている。だれでも利用していただくことができ、「にこたん」も週一回開催される。

### Ⅲ 地域に開かれた大学づくりに関する目標を達成するためにとるべき措置

委員：地域共生推進センター棟5階のビューラウンジの利用はあるか。

大学：にこたん利用者や学生にビューラウンジが利用できることを案内している。

委員：公開講座は予定通り開催できたか。

大学：予定通り4回開催できた。これに加え地域創生のための鳴滝塾を開催している。

委員：SDG's 私募債発行事業とは具体的にどのようなことか。

大学：企業が借金をする際、SDG's の教育に関する項目に合った所に銀行と共に寄附をする  
が、その対象に選ばれたということだ。

### Ⅳ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

#### 1 組織の改善及び効率化

委員：職員の質が向上し、充実してきていると感じる。

大学：学生支援をきちんとできる体制が整った。今後も計画を立ててやっていきたい。

委員：「1) 機構の再編」の「②本学組織の見直し」の実績について、これは具体的にはどう  
いうことか。

大学：コロナの影響で、他大学ではカリキュラムが翌年度に持ち越しをするという事が発生  
しているが、本学では当初計画していたカリキュラムを全て行うことができた。

#### 2 人事の適正化

委員：事務職員の募集に対する反応はどうか。人気はあるか。

大学：昨年度は2名の職員を採用した。また、今年度は30歳以下を対象とした募集を6月  
にしており、10人の応募があった。この内若干名を採用する予定である。

委員：学生支援を行う派遣職員はプロフェッショナルか。

大学：現在2名の職員がおり、その内1名はハローワークでの勤務経験があり国家資格を持  
っている。また、もう1名は人事業務能力のある人物だ。

委員：新見市からの職員派遣について、これまでは派遣に関するルールは無かったのか。

大学：短期大学のときにはあったが四大化後は無かった。四年制化により業務の複雑になり、  
また専門性が高くなっている。大学としては、市に大学のことを理解しておいてほし  
いということと、事務の専門性を高く保ちたいという考えがある。このような思いで  
協定を更新した。なお、派遣人数は毎年協議する。

### Ⅴ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

#### 2 外部資金の獲得

委員：科学研究費の継続件数が17件と、たくさんあると感じる。

大学：一つの研究の研究期間が3～5年あるため、現在はこの件数となっている。

委員：これだけ数があれば、実績報告等の際の負担が大きいのではないかと感じるがどうか。

大学：教員と事務の両方に負担がある。

委員：この研究費は大学の会計に入るのか。

大学：預り金の形になる。

## **VI 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するために取るべき措置**

### **1 自己点検及び自己評価**

委員：教員活動の省察に対して、教員は協力的か。

大学：協力的だ。大半の者が真ん中の評価になり、一部の者が良い評価や悪い評価になる制度設計だという説明を行い、受け入れられた。この制度については、前学長の時から基となる仕組みがあった。

委員：数字で出れば、公正な評価ができる。

大学：他大学からの評価も高かった。他大学でこの制度の設計を試行錯誤していた方が本学の教員となっている。他大学で作成したものを本学に合うように設計し直したため、負担が少なかった。

委員：昨年度からこの制度を動かしているのか。

大学：昨年度は試行の段階だった。今年度は、昨年度の自己評価を評価者がチェックをし、フードバックする。

### **2 情報公開及び情報発信**

委員：大学ホームページの閲覧件数が大幅に伸びており、すごいと感じる。

大学：受験生やその保護者に訴求するよう、文字や写真に動画を加えた。コロナ禍により、受験生は大学ホームページで判断しており、内容の工夫をしている。

## **VII その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置**

### **1 施設・設備の整備及び活用**

委員：エアコンの電気式への改修について、電気式の方が安くなるのか。災害のことを考えると、備蓄できる燃料の方が有利ではないか。

大学：以前は燃料が安かったが現在は高い。また、機器の出荷台数でも電気式が多いため安価だ。このように全体的に見ると電気式の方が安い。

委員：施設内は一通り電気式に変わったのか。

大学：もう少し残っている。施設が多いため計画的に改修している。

### **2 危機管理及び安全管理**

委員：多くの学生が防災士の資格を取得している。

大学：地域を守る人材を育てている。この資格は学生の就職の際に有利になるだろう。また、このことは本学の売りにもなる。

## Ⅷ 予算、収支計画及び資金計画

委員：キャッシュフロー計算書に関し、資金が9,800万円増加しているのは固定資産の未払いがあるからか。

大学：そうだ。固定資産の未払いが大きい。

委員：未払いとなっているのは予定通りという認識で良いか。

大学：良い。

委員：建設仮勘定の内訳はどのようなものか。

大学：2号館空調設備改修設計や土地取得の手付金などである。

委員：財務諸表は、監査法人に確認してもらい作成しているのか。

大学：そうだ。大阪府立大学なども見ている法人にお願いしている。

委員：財務諸表の作成システムはあるのか。

大学：ない。エクセルで作成している。財務会計システムでも作成することができるが、エクセルで作成したものと突合している。

### ■その他

事務局：防災拠点に関する連盟が令和3年6月に市長に対し提出された要望書について、具体的に誰が出したかやその内容を確認したい。市の事務局では把握していない。

大 学：議長から、議員連盟ができたことや要望書を出したという連絡を受けた。

事務局：その後市長へ要望書を提出されていると思うが、それを確認しても良いか。

大 学：構わない。

事務局：また、大学はこの要望書を受けてからの時系列をまとめて欲しい。

委員長：事務局は、次回までに要望書を確認をすること。大学は次回までに事務局に対し、要望書を受けた以降の大学の動きを説明すること。